

第51回「日本キワニス文化賞」受賞者

小鹿野歌舞伎保存会（小鹿野子ども歌舞伎）

プロフィール

小鹿野歌舞伎は、江戸時代後期に初代坂東彦五郎が江戸歌舞伎をこの地に伝えたのが始まりとされ、旧大和座の系譜をひく地芝居である。小鹿野歌舞伎保存会は7つの組織で構成され、そのひとつが「小鹿野子ども歌舞伎」である。18歳未満の子どもの数は14名で、小学生11名、中学生3名からなる。毎年、3月、4月、11月に公演をしており、それ以外にも依頼にこたえて上演している。



小鹿野文化センターを会場に毎週木曜日午後7時から9時まで稽古を行う。公演の前には週2回稽古することもある。子供歌舞伎の卒業生は、高校生が大人の歌舞伎に参加したり、社会人になって地域の会員となって活躍するケースも少なくない。常設の掛け舞台のほか、祭り屋台(山車)に芸座・花道を張り出して演じる「屋台歌舞伎」も行われる。演目も豊富で、平成26年11月の小鹿野町郷土芸能祭では、「一谷轍軍記熊谷陣屋之場」を上演した。

近年、長浜曳山子ども歌舞伎(滋賀県)、小松曳山子ども歌舞伎(石川県)と並んで、「日本三大曳山子ども歌舞伎」と称されている。

小針領家獅子舞保存会

プロフィール

埼玉県の指定無形民俗文化財のうち子ども中心のもの19件には、7件の獅子舞が含まれる。春から秋にかけての神社の祭礼では、天下泰平、五穀豊穰、悪病退散を祈願する獅子舞が広く奉納されている。

桶川市の小針領家の獅子舞は4月と9月に行われる氷川諏訪神社の祭礼で奉納されるものである。獅子舞の前に、舞の場を清めるため子どもたちによる棒使いの演技が奉納される



のが特徴で、若者が舞う「草神楽」と熟練者が舞う「正神楽」とともに子どもの獅子舞が披露される。活動者数は30名。そのうち小学生から高校生までの会員が14名参加している。このうち、女子は笛方や棒使い、男子は笛方、獅子、棒使いを習っている。練習は、春と秋の祭礼1ヶ月前から、毎週土日の夜間に行われているが、それ以外の期間も随時練習の機会が設けられている。子どもたちは保存会員として登録されており、保存会は「引きこもりがちの」子どもに参加を呼びかけるなど、地域教育の実も上げている。